



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

昭和大学国際教育シンポジウム開催

PBL委員長 中村 雅典

平成19年8月1, 2日の両日, 上條講堂において第1回昭和大学国際教育シンポジウムが開催されました。チューレン大学, ワシントン州立大学, フロリダ州立大学, ブリティッシュコロンビア大学, ペンシルバニア州立大学, アデレード大学, 香港大学, コンケン大学(タイ)から医歯薬学教育の専門家を招聘し, 初日は問題解決型学習(Problem Based Learning : PBL), 二日目は客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)をテーマに, 今までにない非常に内容の濃いシンポジウムが開催されました。



ご存知のように, PBLは医歯薬教育だけでなく, 現在広く教育手法として理学, 工学など多方面にわたり採用されています。また, OSCEは患者に対する医療実践のために必要な態度と技術を評価するものであり, 我が国でも登院前の共用試験として位置づけられました。各国, 各学部や専門領域でその採用方法は異なりますが, 根底には学習者による積極的な学習ということです。今回, 各国医歯薬学部の教育理念や教授戦略を知り, 意見交換ができたことは今後の昭和大学における教育にとって実り多いものであらうと思われま。また, 本シンポジウムには昭和大学4学部の教員, 大学院生だけでなく, 北里大学, 帝京大学, 日本歯科大学など他大学からも教員が参加され, 積極的な意見交換がシンポジウム会場だけでなく, レセプション会場でも行われました。このシンポジウムが医歯薬学教育の新しい発信の場になることが期待されます。

歯学部で招聘した研究者は, 姉妹校であるアデレード大学から医学教育学の専門家である David Newble 教授, 香港大学から Esmonde Corbet 教授, ブリティッシュコロンビア大学から歯学部長の Charles Shuler 教授で, 3人とも歯学教育だけでなく, PBL,

OSCEへの造詣が深く, 広く国際的に活躍されている先生たちです。Charles Shuler 教授は前年まで南カリフォルニア大学歯学部でPBL教育の先頭に立っていた方であり, 今年これまでの研究と教育業績が認められてブリティッシュ コロンビア大学歯学部長に招かれました。

3人の先生方にはシンポジウム前日の7月31日に歯学部教員向けにレクチャーをしていただき, その場でも歯学部教員から積極的な意見や質問が飛び出し, 有意義な会議となりました。さらに, 昭和大学歯学部は統合ユニットやPBL実践等で, 国内の歯学部では先進的な教育を行っていることは事実ですが, 今回, 3人の先生に本学で現在行っているPBLや統合ユニットに関しても評価していただき, 大変厳しいまた示唆に満ちたアドバイスをいただくことができました。明日からの昭和大学歯学部教育に役立てたいと考えております。

マレーシアとの交流

口腔衛生学 弘中 祥司

本年6月18日から2週間, マレーシアから Dr. Mahrusah bt. Jamaludin が来日し, 日本の口腔保健, 特に口腔機能に関する評価法と治療に関して, 口腔衛生学教室で研鑽を積まれました。

Dr. Mahrusah はマレーシアにおいては Deputy Director of Oral Health Ministry of Health, Malaysia で直訳すれば健康省口腔保健局次官ということになります。



歯科病院口腔リハ科や多くの東京都の施設について見学・研修されました。最終日には昭和歯学会の後援を得て、「マレーシアにおける口腔保健」の講義をしていただき, 学童期においては「う蝕」が日本より少ないマレーシアでの口腔保健プログラムを紹介していただきました。

マレーシアは, 7, 000万人の人口を有するのですが, 6つの歯科大学しかないため, 独自の口腔保健活動が普及しており, ウォーターフロリデーション(水道水のフッ素化)や啓発用のパンフレットの充実など特色があります。ぜひ, 皆様もマレーシアを訪れて下さいとのことでした。今後も, マレーシアとの交流を深めていければと思いました。

第1回富士吉田教育部ワークショップに参加して

歯周病学 山本 松男

平成19年7月7日、8日の二日間、第1回昭和大学富士吉田教育部教育ワークショップが、富士吉田教育部において開催され参加してきました。チーフタスクに伊藤良作教授をはじめ、教育部タスクフォースに5人、医学部と保健医療学部タスクがそれぞれ2人、歯学部と薬学部からはそれぞれ1人のタスクを迎え、第1回とはいえ10年にわたる昭和大学の経験の蓄積によりスムーズで深いディスカッションとなりました。歯学部タスクは歯科薬理学の山田教授でした。

今回は富士吉田教育部主催の初めてのワークショップで、専門課程をよりよく学習するため、また医療専門人として必要な一般科目のあり方、教育方法など、いわば昭和大学の足固めともいえる内容でした。具体的なテーマとしては、「医療人になるためのサイエンス教育」、「リメディアル教育」、「ヒューマニズム教育」、「コミュニケーション教育」の4テーマです。リメディアル教育とは聞き慣れぬ言葉ですが、ゆとり教育や入試科目数減少等により大学教育内容習得に不足する部分を補う「底上げ」教育のことです。

私が参加したのは「コミュニケーション教育」についてでした。コミュニケーションといっても検討対象は大変幅の広いものとなりますが、専門課程にあがる前に何を身につけて欲しいか、身につけたことが専門教育を受ける中でどのように活かされるのかといったことを考えながらの2日間の作業となりました。専門的な対話法などの前に社会人としての常識的な受け答えをスムーズに行えるように、目上の人に対する常識的で礼儀正しいE-mailの書き方などの内容を一つの特色として盛り込むことなどを検討しました。

どのテーマも、今までのカリキュラムでは不足していた内容をカバーする基礎的な内容であったと感じました。プロダクトの良し悪しだけでなく、ワークショップに参加し、日々の講義や実習でも気をつけるべき要点も気づくことができ、大変ハードな2日間でしたが、収穫も大きかったと思います。

第13回昭和大学医学部教育者のためのワークショップ

顎口腔疾患制御外科学 羽鳥 仁志

7月22日～24日、葉山のIPC生産性国際交流センターにて第13回昭和大学医学教育者のためのワークショップが行われ、歯学部からはビギナーコースに私・羽鳥、アドバンスコースに山田教授、招聘タスクとして向井教授、歯学部タスクフォースとして佐藤教授が参加しました。

私が所属したビギナーコースのCグループは医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、看護専門学校、

富士吉田教養部の混成チームであり、ほぼ初対面、普段は全く違う専門を持つ者の集まりでした。

Cグループのテーマは、「医学部1年次の地域医療と福祉(早期体験実習)」であり、入学したばかりの学生に対して「自分は将来、社会に貢献できる医療人になるんだ」ということを強く認識させることを目標としました。

このテーマは、当然のことながら医学部学生に限定されるものではなく、メンバー各々の教育対象者に伝えたいメッセージであり、い



ろいろな立場からの意見を交換することができて非常に内容の濃いディスカッションができたのではないかと思います。また、2日目、3日目と議論を進めるうちに、昭和大学全体の問題点も浮かび上がってきました。「昭和大学は可もなく不可もない。イメージが希薄である。」「ちょっと待て、4学部を擁する医療系総合大学じゃないか。」「1年次の富士吉田という恵まれた教育環境もあるぞ。」「ならばその特色が生かされていない。」「じゃあ、学部間交流を活性化すれば素晴らしい大学になるじゃないか！」と盛り上がっていったのです。

歯学部ワークショップとの雰囲気の違いを一つ。夜、お酒を飲むときは教育について熱く語ることなく、楽しい話をして翌日に備えて早く寝る。これは見習うべきかもしれませんね。

昭和大学公開講座のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

○「第36回 旗の台公開講座」

日時:平成19年10月20日(土)13:00～16:00
場所:昭和大学旗の台校舎 4号館6階 600号室
(第二講演)

演題:【痛み～この不思議な感覚～】

講師:昭和大学准教授(口腔生理学)鶴岡 正吉

○「第10回 歯科病院公開講座」

日時:平成19年10月13日(土)13:00～15:30
場所:昭和大学歯科病院 6階 第2臨床講堂
(第一講演)

演題:【親子で食育～食育は歯・口の健康から～】

講師:昭和大学教授(小児成育歯科学)井上美津子
(第二講演)

演題:【良く噛める永久歯に次ぐ3番目の歯(デンタルインプラント)】

講師:昭和大学准教授(インプラント科)真鍋 真人
(講演終了後、15:30～)

希望者の方に口腔清掃の指導を行います。

USC からの学生(2名)受け入れ

国際交流支援委員会 山本 松男

平成19年8月13～17日までの期間、本学歯学部が国際交流の提携をしている南カリフォルニア大学歯学部から Hisako Seignemartin さん（4年生・最終学年）と Kathleen Handlers さん（2年生）の2人を学外研修の一環として受け入れました。口腔解剖学、歯周病学、小児成育歯科学で、それぞれレクチャーや臨床見学、日米の歯科医療の違いについてのディスカッション等を行いました。

また、Hisako Seignemartinさんは、昨年の夏に昭和大学国際交流プロジェクト（歯学部編）として本学歯学部学生2人（現5年生）が南力大に派遣された際には、学内や現地の案内などで協力をして頂きました。今回はその時に聞いていた日本の歯科診療や昭和大学の様子を実際に見る機会になりました。南力大はPBL方式の比率が際だって高い教育システムを採用していることでも有名です。彼らの知識や臨床に対する考え方等を聞く機会でもあり参考になることが少なくありませんでした。

本年も歯学部4年生の学生が1人、8/26-



9/3まで南カリフォルニア大学に派遣される予定です。既に相互に面識ができ、このような学生や教員のインタラクションがますます盛んになることは、本学の発展にも寄与するものと信じます。学生では昭和大学国際交流プロジェクトや選択実習で交流がもてますし、教員は研究等を通して交流ができます。さらなる国際交流を目指しながらいきたいと思います。

D6選択実習を体験して(アデレード大学)

歯学部6年 武井 美咲

4年次に「アデレード大学歯学部における海外実習研修」の第一回目の交換留学生としてアデレード大学に行き、基礎実習を見学してきましたが、6年になり、再度アデレード大学への留学のチャンスを与えて頂き、アデレード大学歯学部の学生がどのような毎日を送っているのか、という興味の尽きない事を見聞させて頂きました。

前回は後輩二人と合計三人で行きましたが、今回は一人で行って来ました。昨年アデレード大学から交換留学生が二人来ましたので、大学内外を案内したり、通訳をしたり、歓迎会を催したりなどして仲良くなった学生が、アデレード大学歯学部で5年生として在籍していましたので、彼らの治療の見学をはじめ、その他多くの学生の治療を見学することができました。

前回は臨床科目を一通り終えた段階で行きましたが、今回は臨床実習を一通り終えた段階で行きましたので、昭和大学での臨床実習との違いをはっきりとつかむ事ができました。

アデレード大学歯学部での臨床実習は、学生が自主的に治療を進めていき、分らない所だけ治療の指導を仰ぐ、という形態でしたので、まるで勤務医の治療を見学している様でした。学生は卒業後、すぐに開業する方が多く、「general practitionerになろう」「自分で何でもできるようにしよう」という思いが強く感じられ、熱心に治療に当たる姿を見学できました。

このような機会を与えて下さった宮崎学部長をはじめ、山本教授、佐藤教授、片岡講師その他多くの先生方に感謝いたします。



受賞

広報委員長 五十嵐 武

・ 片岡竜太(顎口腔疾患制御外科学教室 講師)

平成19年7月13-15日に仙台で開催された第20回日本顎関節学会総会・学術大会において、ポスター発表優秀賞を受賞されました。

演題名:「日中クレンジング行動変容に対するスプリントの短期使用の効果について—アンケート結果を中心として—」



報道

広報委員長 五十嵐 武

小児成育歯科学教室 教授 井上美津子

共同テレビ(フジテレビ系列にて放送)「キク! みる!」《第278回》(2007年8月17日 22:52-23:00 放送) テーマ:新健康フロンティア戦略で、今回は昭和大学歯科病院が訪問され、特に子どもの歯のケアの重要性について紹介されました。

アデレード大学での研修を経験して

歯学部4年 丸山 範子

2007年8月の2週間、オーストラリアのアデレード大学での海外研修に参加しました。

この間、一言では言い表せないほど本当に得るもの

が大きく、密度の濃い毎日を過ごせました。異国の地での生活は、歯科医療だけではなく自分自身を見つめ直す絶好の機会となりました。

アデレード大学は5年制でPBLや講義、基礎実習を経て、4年生から本格的な臨床実習が始まります。今回の研修内容は主にこの臨床実習への参加でした。日本との材料や道具、歯式の違い、英語による患者さんとの会話は新鮮で毎日驚きの連続でした。Clinicでは積極的に話しかけ、suctionを手アシストし、レントゲンを見せてもらいながら参加しました。病院では学生が治療を行うのが一般的です。Tutorのチェックが入り多少時間はかかりますが、学生たちは臨床医として一人の患者さんに責任をもって対応し、日本の歯学生よりはるかに臨床の目を養っています。そんな姿を目前にすると私も早く治療できるようになりたいと強く思いました。

この留学を通して、私は様々な国の多くの友人と本当に温かい優しさに出会うことができました。友人たちの心遣いや言葉に何度励まされた事でしょう。そしてまた、歯科医療への興味は尽きず、自分の視野を広げる転機となり、これからの目標をもつことができました。

最後にこのような素晴らしい機会を下さった先生、関係者皆様に心から感謝の意を申し上げます。



アデレード大学での研修を経験して

歯学部4年 須佐 真子

今回、オーストラリアにあるアデレード大学で2週間ほど病院見学を中心に研修を行ってきました。アデレードはとても穏やかな町で、生活しやすい場所だと感じました。

アデレード大学は様々な学科から構成されており、医学部、歯学部、薬学部の他にも法学部や経済学などがあり、総合大学としてオーストラリアの中でも大変有名な大学であります。歯学部の学生はADH



(Adelaide Dental Hospital)で主に歯科を学んでいます。今回の研修で一番驚いたことは、歯内療法や一般的な治療もそうですが、抜歯や簡単な歯肉切除術など、全て学生が行っていたことです。チューターは各科にいますが、難しい治療のケースや誤った術式を行っているときにアドバイスをするだけでした。このように学生は自分の患者さんを持つため責任感がとても強く、『患者—歯科医師』の関係が早い段階から確立されていると感じました。さらに、医療に携わる一員としての意識が高く、自分から進んで学習している姿勢がとても印象的でした。

短い期間ではありましたが多くのことを学ぶことができ、出会った友人達に刺激された2週間でもありました。今回アデレード大学で学んだことは将来、確実に生かされると実感しています。最後になりますが、この研修の機会を与えて下さった先生方、家族、そして現地でお世話になった方々に感謝したいです。

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

9月3, 4日(月, 火): 第5回四大学歯学部交流会

9月8日(土): 臨床研修歯科医師採用試験

9月22日(土): 歯学部進学相談会

9月26-28日: 職員定期健康診断

10月2-4日: 職員定期健康診断

診療統計 (平成19年7月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,082	723.3	692.6	707.8
入院患者	412	13.3	9.8	14.0

(土曜日半日も1日として扱うため、平均は見かけ上、下がっている)

編集後記

広報委員(歯科放射線学) 松田 幸子

歯学部便り8月号をお届けします。いつもながらお忙しい中執筆していただいた先生方に感謝いたします。この号は学生の記事が掲載されることが多いですが、早いもので夏休みの学外研修も今年で3回目です。この研修も多くの先生方のご尽力で実現しているわけですが、今年度の学外研修に参加した学生さんたちがつかみとったことをこの記事から読み取っていただけたらと思います。学生さんたちも頑張っています。ぜひ応援してあげてください。